

### 趣 旨

自らの歯や口の健康に関心をもち、自分の課題を把握し、解決していくことができる資質や能力を育成するための学校歯科保健活動の進め方について協議する。

### 協議題

- 1 教科、特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図った指導計画の作成と実施について
- 2 学校・家庭及び地域社会と連携した歯科保健活動の進め方について
- 3 自律的な生活習慣を確立し、実践力を育てる歯科保健活動の進め方について

## 第 6 分科会

発 表 主 題	発 表 者	
	所属名及び職名	氏 名
<p>自己の生活を振り返り、自主的に歯・口の健康づくりができる子どもの育成</p> <p>～「歯からはじめよう健康づくり」の実践を通して～</p>	<p>宮崎県都城市立沖水小学校 教 諭</p>	<p>中 村 雄 三</p>
<p>自らの健康の課題に気付き、解決していこうとする生徒の育成</p> <p>～歯と口の健康づくりを通して～</p>	<p>佐賀県唐津市立巖木中学校 養護教諭</p>	<p>三 浦 克 子</p>
<p>高校生における歯と口腔の健康づくり</p> <p>～歯科保健に対する意識を高めるために～</p>	<p>一般社団法人長崎県歯科医師会 理 事</p>	<p>俣 野 正 仁</p>

役 員	所属名及び職名	氏 名
指 導 助 言 者	一般社団法人長崎県歯科医師会地域保健委員会 副委員長	松 永 敏 浩
司 会 者	宮崎県日南市立鶴戸中学校 教 頭	金 丸 厚

# 質疑応答及び研究協議

## 1 質疑応答

[質問1] 中村先生の発表について

ア 学校保健委員会の開催時間と、学校医・学校薬剤師の参加について伺いたい。

(宮崎県 歯科医師会 堀)

イ ブラッシング指導について、来ていただく歯科衛生師さん等の人数や学級の割り振り、実施時間等を教えていただきたい。

(宮崎県 加納小 山下)

ウ 歯科医院受診を促進させるための具体的な取組について伺いたい。また、保護者への有効なアプローチの仕方について、各学校の取組をお聞きしたい。

(長崎県 千々石第一小 寄辺)



### 【回答】

ア 本校では、年2回の開催で平日の昼(15時から16時30分、内容により15時30分から16時30分)の時間帯で開催している。

学校医・学校薬剤師には、文書で通知はしているが、現在は学校歯科医の参加だけである。

イ 歯科検診後、3人の校医とブラッシング指導の日程調整等の打合せを行っている。校医により、実施時間もその日に指導する学級数も違うため、指導の内容や準備物の確認等も含めて、それぞれの校医と連絡を取るようになっている。

ウ 未受診の児童への個別指導と保護者への受診を促す文書の配付、学級担任が学級通信や連絡帳で受診を呼びかける等の取組を行っている。また、参観授業で歯の保健指導を保護者に観てもらうことで保護者の意識が変わっ

ていくのではないかと思うし、その必要性を感じている。

(発表者 中村)

[質問2] 三浦先生の発表について

ア 「歯によい給食メニュー」についてどのような観点から「歯によい」としているのかを伺いたい。

(宮崎県 歯科医師会 堀)



イ 1人あたりのむし歯本数がとても少ないが、佐賀県全体でも同レベルなのかを伺いたい。また、佐賀県のフッ化物洗口の実施状況を教えてほしい。

(長崎県 教育委員会 栗原)

フッ化物洗口の必要性について、教育的な観点から意見を伺いたい。

(宮崎県 歯科医師会 錦井)

佐賀県では、フッ化物洗口をどのような方法で実施しているのかを伺いたい。

(福岡県 川口小 今里)

ウ 各県のフッ化物洗口の実施状況について伺いたい。

(司会者)

### 【回答】

ア 毎月の給食献立会議の中で、「栄養」と「かたさ」の面から栄養士を中心に意見を出し合って献立を決めている。五穀米や麦ご飯も提供している。

イ 県全体ではなく、地域的には、中学校での給食後の歯みがきが定着している。また、学校から検診の結果が届くと、すぐに受診する保護者が多いことが、結果に繋がっているの

ではないかと推測している。

フッ化物洗口については、本校では実施していないが、町内の小学校では9割の児童が保護者同意の上で洗口をしている。

今後、幼保小中と地域で連携しての保健指導に取り組む上で、フッ化物洗口の実施も検討していく課題である。それに伴い、町内で学校保健委員会を立ち上げ、計画を進めていく予定である。

(発表者 三浦)

ウ 県全体で実施している県はない。佐賀県では小学校が完全実施している。宮崎県では市町村単位で実施している。串間市は小中学校完全実施、日南市では学校単位で保護者の希望が全体の3/4を超えた場合に、希望者に対して実施している。宮崎市では、幼稚園3割、保育園4割、小中学校2割の実施状況である。

(会場の各県から)



[質問3] 俣野先生の発表について

発表者の補足

「CO」について。以前は「C」にカウントしていたため、現在むし歯が減ったというものの、予備軍はたくさんいることになる。フッ化物洗口を行うと、むし歯は必ず減るが、洗口を行う前の3歳児までの乳歯をむし歯にしないという環境づくりも大切である。

歯みがきは歯肉炎や歯周病の対策であり、むし歯予防効果は過度に期待できない。集団的なフッ化物洗口は、中学生までは続ける必要があり、30歳まではその効果が見られる。

ア 「CO」のある生徒への指導はどのようにされているのかを伺いたい。

(宮崎県 歯科医師会 錦井)

【回答】

ア 「CO」を「C」にしないことが大切である。削った歯は元には戻らないことや、健全歯が一番強いのだということを保健便りに載せて、受診を勧めている。

(発表者 俣野)

## 2 研究協議

【意見】

本校の取組を紹介したい。歯科検診の結果から、養護教諭の「気付き」を保護者に伝えるようにしている。検診結果のお知らせとは別に、歯型に歯の状態を色分けしたものにコメントを添える等、6年間の歯の状態が分かるような内容のプリントを配付している。また、給食後の歯みがきの時間に学級へ指導に行ったり、歯科校医による保健指導を発達段階に応じて行ったりしている。

(佐賀県 厳木小 谷口)

[質問1]

栄養士の立場から食を通してアプローチをしているが、これでよいのかと考えることがある。歯科医師の立場から、学校で行う指導についてアドバイスをしてほしい。

(宮崎県 北郷小 久保田)

【回答】

6月の検診後に、事後措置として秋に2度目の検診をしてはどうか。高校生については、卒業前にもう一度検診を実施できるとよいと思う。

実際に2回実施している学校もあるので、ぜひ歯科校医に相談してほしい。また、「ライオン」が小学生を対象にインターネットを通して、歯科保健イベントを開催している。それに参加するの子どもたちの意識を高める手立てになるのではないかと。

(宮崎県 歯科医師会 堀)

【意見】

歯科保健のシステム上、歯科の検診は高校生までで、それ以降は途切れてしまう。宮崎県の8020達成率は25% (全国平均は40%) である。今後も小中高の段階で歯科保健に御尽力いただきたい。

(宮崎県 歯科医師会 堀)

## 【意見】

中学校区で3校合同の学校保健委員会を立ち上げており、9年間を見通した健康づくりに取り組んでいる。今年度は、学校歯科医の先生の協力により、講話の後に、Q&Aの時間を設けて、事前に集めた保護者からの質問に学校歯科医が答えるという形をとった。学校歯科医が、1つ1つの質問に丁寧に答えてくださったため、保護者に大変好評であった。とてもよい取組ができたことに感謝したい。

(宮崎県 塩見小 村田)



# 指導助言

長崎県歯科医師会地域保健委員会  
副委員長 松永敏浩

日頃から児童生徒の歯と口の健康を守るために御尽力いただいていることに感謝したい。今日の発表や質疑応答等を参考にして、今後の学校教育の取組に生かしてほしい。



歯科保健全般から見ると、学校教育の中での取組はライフスタイルの一部分でしかないが、「自主的に行う健康づくり」という意識や実践力を育てるには大事な時期である。

学校と学校歯科医の連携した取組には、なかなか難しい部分もある。学校における歯科に関する問題点や課題などがあれば、自分で抱え込まずに、日頃から密に学校歯科医とコンタクトを取ってほしい。そうすることで学校歯科医が学校の問題を把握することもできる。

今日の発表のテーマにもあったが、小学生が自主的に歯・口の健康づくりをすることは難しいと考える。歯みがきだけを習慣化させるのではなく、基礎的な生活習慣の中の1つとして定着させることが重要なことである。また、健康教育を活性化させるための手立てとして、学校保健委員会の開催回数を増やしたり、発達段階に応じたテーマや目標を立てたりすることも有効ではないかと考える。さらに、中学生になると、部活動を始める関係もあり、食生活を含めてそれまでの生活スタイルに変化が出てくる。その影響もあり、歯みがき

の状態がよくない、受診する時間がとれない等の問題が発生してくるため、教職員が、歯科保健に関する知識や理解が得られるような研修を行う等、今日の発表を参考にして、各校でもぜひ実践してほしい。

むし歯の状況については、全くない子と1人でたくさんむし歯がある子との二極化が問題となっている。中でも、重症なむし歯がある子どもをどう救済するかという課題がある。むし歯が多数ありながら、未受診のままである場合等、その原因がどこにあるのかを、生活背景も含めて把握し、きめ細かな対応をする必要がある。

こうした問題を抱えている児童生徒を始め、家庭からの意見や要望などにも適切に対応していくためにも、学校歯科医に相談をして助言をもらうことも大事なことであると考えます。

これからの歯科保健に必要なこととして、口腔の機能の問題がある。いつも口が開いている、食べるのが遅い、うまく噛めない等の咀嚼機能の問題を把握するために、学校生活の中で、子どもたちを意識して見ておいてほしい。

また、未受診の児童生徒への対応については、学校歯科医に相談をする等、今日の発表を参考にしてほしい。「CO」「GO」の未受診者の対応についても同様に管理が必要である。

